

(2) 報 告

小中一貫教育校の在り方検討会議 作業部会 (第1回～第3回) 作業の概要

1 実施日時・作業内容

(第1回) 7月30日(水) 13:30～16:00 教育委員会会議室

- ・本作業部会設置の趣旨
- ・小中一貫教育校の現状について
- ・検討会議(第1回)における議論の概要
- ・今後の作業内容の整理及びスケジュールの確認

(第2回) 8月21日(木) 13:30～16:00 3B会議室

- ・神奈川県の小中一貫教育の定義
- ・小中一貫教育校導入によるメリット・デメリット

(第3回) 9月3日(水) 13:30～16:00 教育参事監室、3A会議室

- ・小中一貫教育校導入によるメリット・デメリット
- ・神奈川県の小中一貫教育の定義
- ・神奈川県がめざす小中一貫教育校のすがた
- ・「小中一貫教育校の在り方検討会議」取りまとめ項目(一次及び最終)(案)について

2 作業部会委員(14名)

- ・ 県教育局支援部子ども教育支援課長【部会長】
- ・ 県公立小学校教頭会 代表
- ・ 県公立中学校教頭会 代表
- ・ 県立総合教育センター 指導主事
- ・ 中教育事務所 指導課長
- ・ 県教育局総務室 主幹
- ・ 県教育局行政部教職員企画課 主幹
- ・ 県教育局行政部教職員人事課 グループリーダー
- ・ 県教育局支援部子ども教育支援課 グループリーダー、指導主事(5名)

(3) 協議

「神奈川県としてめざす小中一貫教育校の在り方」について
(ア) 神奈川県の小中一貫教育の定義

神奈川県の「小中一貫教育」の定義(案)

小中学校が、同じ教育目標のもと、めざす子ども像を共有し、義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育

「小中学校が、」

：小・中学校に関わる全ての人(教職員、地域・保護者)が、

「同じ教育目標のもと、めざす子ども像を共有し、」

：小・中学校を一つの学校とした一体感のもとに、地域の実態に応じた教育目標の実現をめざし、子どもたちを育む方向性を全ての人共有する

「義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、」

：学習指導要領は、校種間の円滑な接続・連携の観点重視されており、この趣旨を十分に踏まえながら義務教育 9 年間を見通した教育内容を適切な時数で実施する教育課程を編成する

「それに基づき行う系統的な教育」

：学校生活の中で指導に当たる教職員は義務教育 9 年間の教育活動を理解し、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの全ての児童・生徒がそれぞれの発達段階に応じた系統的な指導を受けることができる教育

検討の視点

「なぜ神奈川において小中一貫教育校を行うのか」

小中連携・一貫教育に係る県内の状況

：県内の多くの小・中学校において、小学校と中学校の円滑な接続をめざした取組が進められている。

多様なニーズや特色を持つ子どもたちの「9 年間の学びと育ち」を支えるために、小中一貫教育という「手立て」を用いていく。

小中一貫教育という考え方を打ち出すことで、これまで行われてきた「連携」において得られてきた成果よりも高い効果を生み出すとともに、学校教育の質を高める。

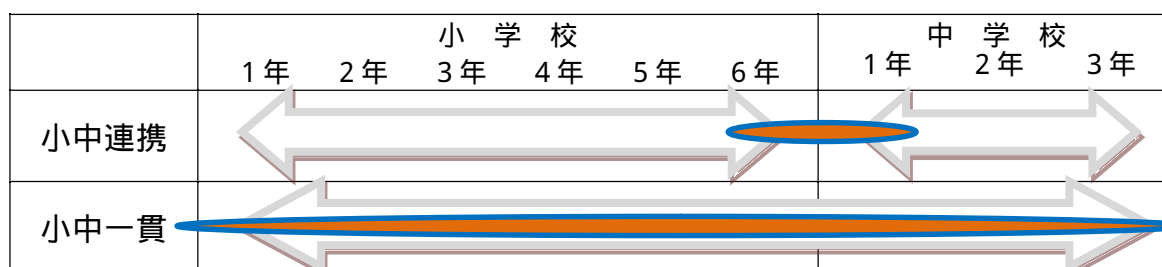
「『小中連携』と『小中一貫』の違いは何か」

【文科省における現段階での定義】

小中連携：小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、
小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育：小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子供像を共有し、
9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

神奈川県内では、地区によっては、異年齢集団での交流等が行われているが、主に接続する小学校6年生を対象に実施されているのが現状。
神奈川県として推進していく「小中一貫教育」は、“9年間を見通した”や“日常的、継続的な関わり”という言葉がキーワードとなるのではないかと



〔参考〕他地区における小中一貫教育の定義

【横浜市】

敷地や校舎を共有するなどの物理的な条件に関係なく、小中学校の教職員が情報交換や連携を行い、義務教育9年間の連続性を図った小中一貫カリキュラムに基づく教育活動を推進すること。

【東京都三鷹市】

既存の小・中学校を存続させた形で、児童・生徒は現在の小・中学校に在籍しながら、現行の6・3制のもとで、9年間の一貫カリキュラム（指導計画）をとおして、小・中学校間の強固な連携と交流を図ること。地域ぐるみで子どもたちの教育を支援する「コミュニティスクール」を積極的に推進すること

【岡山県姫路市】

小中共通の教育目標（各校の定める学校教育目標ではない）の設定

(1) キャリア教育の視点

9年間を見通した一貫した指導

(1) 地域資源の活用

(2) 姫路市小中一貫教育標準カリキュラムを活用した取組

(3) 「学力の向上」と「人間関係力の育成」を図るための9年間を貫く取組

小中教職員による協働実践

(1) 小中教職員の協働

(3) 協議

「神奈川県としてめざす小中一貫教育校の在り方」について (イ) 神奈川県としてめざす小中一貫教育校の「すがた」

【教育課程及び指導内容等について】

一人一人の多様な教育的ニーズに応え、共に学び、共に育つインクルーシブな視点で児童・生徒の学びと育ちを促す学校

児童・生徒が多様な在り方を認め合い、尊重し、支え合い、様々な教育活動に意欲的に参加する学校

小学校と中学校がそれぞれの地域の特色を踏まえた一つの学校教育目標のもとに、9年間のつながりを持った学習方法などを、教職員と児童・生徒が共有しながら系統性のある教育活動を進める学校

発達の段階に即した学習規律や生活目標、学校のきまり等を共有することで、児童・生徒への指導方針がぶれずに教育活動を進める学校

複数の教職員が小・中学校を問わず継続的に児童・生徒に関わることで、児童・生徒の日常生活や学習状況を的確に把握し、その情報を共有し、指導につなげる学校

【学校の組織・運営について】

小・中学校の校舎等施設を共有しているか否かにかかわらず、義務教育9年間全期間にわたり、一体感を持って子どもたちを育む学校

小・中学校の児童・生徒が共に活動することで、学校行事や部活動などが活発化した活力のある学校

小学校1年生から中学校卒業後を見据え、中・長期的な目標に基づいた支援をつなげる学校

【地域コミュニティとの関係について】

地域資源のネットワーク化を図り、それぞれの地域の実態に応じた協働を通して、9年間を過ごす児童・生徒の成長を育む地域の核となる学校

【その他】

小・中学校の校舎・施設が離れている場合、「一つの小学校と一つの中学校」、「複数の小学校と一つの中学校」、「複数の小学校と複数の中学校」と様々な立地条件が考えられる。その場合でも、定期的な授業交流や合同行事の実施など児童・生徒間、教職員間の人間関係・信頼関係を深めることを通して、共有した教育目標の実現をめざす学校

(ウ) 小中一貫教育校を導入することによる効果

【教育課程及び指導内容等について】

< 児童・生徒にとって >

中学校の教職員が小学校の児童に対して専門を活かした指導を行うことで、学力の向上や学習意欲の向上を図ることができる。

学習の仕方などの学び方の系統性が確保されることで、進級・進学したときでもとまどうことがなくなる。

小・中学校の教職員が児童・生徒と共通の指導方針のもとで普段から関わることで、児童・生徒は安心して学校生活を送ることができる。

教職員が長いスパンで見守ることで、児童・生徒は精神的にもゆとりを持って過ごすことができる。

下級生は、上級生の児童・生徒と普段から関わることで、自分の成長についての見通しを持つことができる。

上級生は、下級生の児童・生徒と普段から関わることで、上級生としての自覚や下級生への思いやりを持つことができ、自己有用感を育むことができる。

< 教職員にとって >

指導内容が継続的かつ系統的に整理できるので、学習の効率化が図れ、高い学習効果が生まれる。

・総合的な学習の時間などで「課題の見つけ方」「資料の集め方」「資料の分析の仕方」「発表の仕方」などの学び方について継続的・発展的な指導が可能となる。

小学校教員の指導の良さ、中学校教員の指導の良さ等をお互いに理解し合うことで指導の幅が広がり、指導力を向上させることができる。

児童・生徒指導上の課題が生じたとき、長いスパンでの情報をもとに対応を検討することができる。

【学校の組織・運営等について】

既設の小中学校の再編を伴う場合には、管理職等の削減や教育施設・設備の再整理などを通じて、教育資源のより効果的な配分ができる。

【地域コミュニティとの関係について】

9年間通う学校ということで、よりいっそうの愛校心や「私の地域の学校」という愛着心が育まれる。

運動会や文化的行事などが小・中学校で同時に開催され、9年間を通した学びや子どもの成長を目にすることで、学校への信頼感が増す。

小・中学校両方に子どもを通わせている保護者にとって、引き取り訓練などの行事が一体化するため来校する負担が軽減するとともに、学校の「安全の確保」に関する方針への理解が進む。

(3) 協議

小中一貫教育校を実施するうえでの課題と

解決のための方策について

【教育課程及び指導内容等】

< 児童・生徒にとって >

低学年の児童にとって、通学距離が長くなる懸念

人間関係が固定化してしまう懸念

小6の児童に最高学年としてのリーダーシップを発揮させる機会がなくなることや、中1の生徒には、不安が少ない一方、入学時に感じるような喜びや期待感が薄くなってしまうこと

転入してきた児童・生徒にとまどいが生じる懸念

校舎・敷地が離れている場合の移動の問題

< 保護者にとって >

保護者同士の間人間関係がうまくいかなかったとき、長引いてしまう懸念

< 教職員にとって >

慣れ親しんだシステムとは異なることによる負担感の増大

9学年が一緒になった行事運営の難しさ

異校種の児童・生徒への指導に関する研修体制が未確立なため、発達の段階に応じた指導が展開できるかという懸念

【学校の組織・運営等】

小中の免許を持つ教員とそうではない教員との仕事分担の違いから不公平感が生じる懸念

行事等に係って、教職員の打合せや会議の回数や時間が増えることへの懸念

教職員の「9年間の教育」に関する意識を持続させることの難しさとともに、

9年間ずっと勤務できる教員はほとんどいないため、理念を継承することの難しさ

専任の小中コーディネーターなどの人的配置が必要

【地域コミュニティとの関係】

統廃合を伴う場合、地域で慣れ親しんだ学校がなくなることへの抵抗感

従来の学校を軸とした地域コミュニティが分断される懸念と通学区の再編とともに地域コミュニティの再編の必要性

